



特定非営利活動法人 なんとなくのひろば 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

子育て・親育ち茶話会 (先輩ママの経験談を聞こう!)

「うちの子、ちょっと気になる？」

と思ったら…

1年に2回ペースの勉強会「子育て・親育ち茶話会」、今回はちょっとスタイルを変え、山崎育さんをアドバイザーに、年中～小学校低学年の保護者さんを対象に茶話会形式で開催しました。(8月25日、報徳会館大広間) 終了後アンケートに、5名の方から回答をいただきました。

1. 茶話会を何で知りましたか？

① 知人・友人・・・3名 ② チラシ・・・2名

2. 印象に残った点や感想など

子育ての参考になり、再確認することもできてよかった。

いろいろな悩みがあるんだと思った。

これがダメならこれ、と、代わりを考えることが大切だと思う。

粘り強く生きているお母さんたちに感銘しました。

いろいろな話を聞かせて頂き、とても楽しい時間でした。

聞くだけでなく、話をして楽になるのを感じた。

こんなときはこうしたらうまくいった、など、聞いてよかった。

あえて質問しなくても、参考になることがたくさんあった。

どの子にも興味を持ち、伸びることがある。

先輩ママの経験談を交え、子育ての悩み、戸惑いなどが率直に語られた会になりました。



報徳今市振興会館の「居場所」から大広間に向かう廊下。こんな廊下が小さな中庭を取り囲んでいます。

報徳今市振興会館まつり

11月4日(日) 午前10時～午後2時

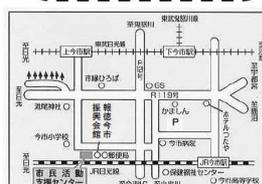
会館大広間
お楽しみステージ
バンド生演奏
numata
サムシング
ほか
昔ばなし、手品など

長年市民のために働いてきた報徳会館に感謝を込めて。歴史ある大広間やTV「幸せの食卓」に使われた台所で、のんびり秋の一日を過ごしてみませんか。



バザー
やります!

サイエンスひろば
田原先生(元宇都宮大学長)の科学おもちゃ & お話
スライム、紙トンボ、…
「川むしたんけん隊」・塚崎さん川むし展示



主催：報徳今市振興会館まつり実行委員会
連絡先 0288-22-2271 (日光市民活動支援センター) 070-3227-7079 (NPO法人 なんとなくのひろば)
協力：NPO法人 おおきな木、NPO法人 なんとなくのひろば サムシング、今市の水を守る市民の会
後援：日光市教育委員会

長年、今市市民、日光市民のために働いてきた会館でのイベントを企画しました。

大広間ステージ、バザー、サイエンス展示などなど、バザー品の提供、当日ボランティアなど募集しています。

← なんにわ携帯にご連絡下さい。

子育て・親育ちの茶話会

場所：今市報徳振興会館

日時：毎月第2月曜日(午前10時～12時)

参加費：300円(お茶代) 次回は11月12日(月)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合ひましょう。「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。(連絡は「なんとなくのひろば」へ 090-3227-7079)

目次

子育て・親育ち 茶話会	1
放射能シンポジウム	2
活動日誌	3
サービス管理責任者研修	3
日光市・市教委に要望書	3
こんな本はいかが? (20)	4

居場所のひとこま

居場所サロンの片隅にある、紙フィギュアコーナー。(紙製でないものも混ざっていますが…) 簡単そうに見えて、いざ作ってみると、だいぶ根気がいります。ぜひチャレンジを。

組み立ててみたいときは、スタッフに頼んでください。設計図とパーツを画用紙に印刷してくれますよ。



『放射性物質と健康を考える シンポジウム』参加レポート

9月1日に開催された『放射性物質と健康を考えるシンポジウム』に「市民代表」という立場で参加しました。

昨年原発事故以来、この通信に書いてきたことや思っていることを整理する良い機会になりました。シンポジウムの感想をまじえ、現時点での今後の課題をまとめておきたいと思えます。

1. 放射能汚染を測る

放射能汚染は均一でなく、個人の行動で左右されます。心配に思ったら、線量計などで測定し、話し合いを持ち、行動を決めていくという文化を作っていかなければなりません。「地域住民の正しい理解と冷静な判断を支援するために、どんな仕組みが求められるのか」といった話を基調講演に期待したのですが、残念ながら具体的なお話はありませんでした。

世界が経験した過去の放射能長期汚染と異なることのひとつは、市民が線量計を持っているということです。安価な線量計が市販されています。専門家の立場からは精度や測定法など、首をかしげる点があるでしょうが、自分たちが住む地域の汚染状況を、広く、継続的に把握することは、地域の空間線量を減らしていく活動として今後重要になると考えます。市民の自発的な動きを科学的厳密さを持ち出して押さえつけることは、適切な対応とはいえません。放射線量計の原理、操作・測定法、データの扱いなど、「放射能リテラシ」を広める活動が専門家として重要なのではと思います。

2. 食品中の放射能

食品に含まれる放射能測定結果の実測にもとづいた助言があれば、役に立ちます。そんな情報や知恵を集積し、市民に知らせていくことは、行政の重要な役割です。消費者庁の金田さんからは、福島の情報を知ることができました。

5月～8月にかけて、「日光ブランド情報発信センター放射線測定室」に、あわせて8回目目の検査を依頼しました。たいへん親切な対応で感謝しています。食品検査をやってみて、感じたことをふまえ、放射能対策室の今後の活動として、以下の提案を行いました。

(2-1) 食品測定体制の強化／測定器精度の向上／設置個所の増設／使いやすい測定依頼の方法を（窓口を増やす、地域の代理人が持参などの工夫を）／食品中の放射エネルギーを減らす実践的手法の研究および広報（既存のデータでなく、実際の野菜等で湯通しの効果などを調べて公表）

(2-2) 蓄積された食品放射エネルギー測定データの扱い／データベース作成／いままで、そして今後測定された食品の登録および保管／データベースの市民への公開

(2-3) 食品以外の放射能測定／土壌の放射エネルギー測定

3. 子どもの健康調査

「福島県内の子ども36%にしこり、福島以外でも甲状腺検査へ」という9月の新聞記事を見て、検診の必要性を強く感じました。国立がんセンターのホームページから「がん罹患率」などの統計表を見ることができます。この表を作る基礎となった生データにアクセス可能であれば、過去の栃木県の統計を調べ、比較することも可能ではと思います。がんだけでなく



下野新聞(9月5日)より

く、心臓や腎臓疾患も心配だという意見もあります。この件については、コーディネーターの梶谷医師からも、ぜひ検診を推進してほしいとの提言がありました。

4. 測って考える文化を

「栃木県有識者会議報告書」には、(1)身のまわりの放射線量をしっかり測って公表、(2)個人がリスクを判断できる情報提供、(3)被ばくの低減対策を推進、(4)今後の状況変化にも目を配ることが大切、という提言が書かれています。この提言を実現するため、今回のシンポジウムを「放射能対策室と日光市民はこれから何をすればよいのか」を考えるきっかけにしたいと思います。

第一歩を踏み出すため、以下の項目の早急な実現を求めます。(4-1)放射線量計貸し出し、食品等の放射能測定器の充実、(4-2)線量計に関する知識、測定データ取り扱いのリテラシーを醸成にむけた講座創設、(4-3)測定値を生活に生かすための実践例の蓄積・公開、(4-4)専門家のアドバイスと住民の議論によるリスク判断などを支援する小集団づくり。

公民館(地域の有志)などが地域センターとなり、「心配すること」を否定せず、「安心」を押しつけず、ともに協力して、測定し、データを記録するネットワークづくりが求められています。地域の力を育てることが、子どもたちの被ばく低減に寄与し、後世の批判に耐える放射線量、土壌や食品の放射エネルギー記録の記録につながるのではと思います。

斎藤市長さんは「最悪を覚悟して、最善を尽くすとの思いで、日光の危機管理をやっていききたい」と力をこめて発言し、シンポジウムをしめくりました。

以上はシンポジウムでの私のメモに加筆したものです。後日、まとめて「危機管理放射能対策室」に提出しました。

「安全」を強調する講演の役割は、すでに終わっているのではないかと思います。「安全」を唱える専門家も、「まったく対策は要らない」とは言わないので、話を聞いている私たちはいっそう不安になります。現在の状況がどれだけ「安全」なのか、または「危険」なのか、具体的にわかりやすく示すことが専門家の仕事です。データで示された報告を聞いて、自分にとって「安心」なのかどうかを判断するのは、その情報を受け取った一人ひとりなのです。「安全」と「安心」はセットではありません。専門家が一方的に「安心」を強調することは、専門家の守備範囲を超えているのではないのでしょうか。

今後は、過去に世界が経験した放射能汚染についての知識、放射能・放射線の作用に関する原理、測定方法、データの統計的な扱い方などの理解が重要になります。「基礎知識」というと、自然放射線や医療放射線について強調されがちですが、より防護の立場、生活者の立場に立った学習テキストが必要なのではと考えています。(手塚)

- 7月31日(火) 通信「なんとなくのひろば」第28号 発行
- 8月3日(金)～7日(火) 「あさやサイエンスパーク」に協力
- 8月21日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! そうめん)
- 8月21日(火) 定款変更認証
- 8月25日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
- 8月25日(土) 子育て・親育ち勉強会(茶話会) 報告書別紙
- 8月27日(月) 発達障がい支援者会議(第60回)
- 8月29日(水) 法務局登記完了
- 9月1日(土) 日光市主催:放射能と健康を考えるシンポジウム(パネラーとして手塚が参加)
- 9月3日(月) 日光市長、市教委に「要望書」提出
- 9月5日(水) 理事会(第47回)
- 9月25日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! サンドウィッチ)
- 10月3日(水) 日光市教委・教育長との懇談会

会員のみなさまへ

8月29日、定款変更、新理事の就任、および代表権の登記変更を完了しました。みなさまのご協力に感謝します。新定款をホームページに掲載しましたので、ご確認ください。



9月25日、サンドウィッチ作成中

「サービス管理責任者研修」レポート

将来、「なにわ」が児童分野の福祉事業を行うことになれば、「サービス管理責任者」が必要になります。いつでも始められるように、「平成24年度 栃木県サービス管理責任者研修」の児童発達支援の研修を受講しています。

私は20代に、知的障害児施設、乳児院で保育をしていました。その時は「処遇計画書」なる、いかにも、お堅い計画書を書いていました。現在、福祉施設が福祉サービスを提供する場所となり利用者は対象者ではなく、我が法人施設のサービスを利用していただく「御利用者様・お客様」という位置づけで対応することになりました。そのため、専門用語を使わず、本人や御家族に分かりやすく書かなくてははいけません。利用者本人のできないことだけでなく、「できること、強さ」に着目して、包括的にみていくことも大切です。

利用者ご本人が望む生活が実現するよう、支援を組み立て(個別支援計画の作成)、支援者は、どのような支援があれば達成できるかの分析を行うのです。詳しくは、「サービス管理責任者研修 栃木県」でネット検索してみてください。(栗原)



カット:ヌミヤーン

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。

毎月第4月曜日 午後7時

日光市民活動支援センター

(都合によりお休みもありますので、参加希望の方はご連絡下さい)

どなたでも参加自由の会。気軽にご参加ください。(担当:西尾・白井)

日光市長、市教委に要望書提出

今年度から始めた居場所事業の「毎日開所」により、第1学期間の継続利用者は5名(小学生1名、中学生2名、高校生以上2名)と、どの開所日も報徳会館に子どもの姿がみられるようになりました。開所日の拡大により、支援の範囲が広がっていることを実感しています。

私たちは「子どもがゆっくりと、楽しく過ごせる環境づくり」をめざしています。若いスタッフが中心となり、学校からの課題学習への対応、子どもたちからアイデアを引き出し、スポーツ、ゲーム、工作などでいっしょに遊ぶなどの活動を行っています。現在のスタッフに加えて、女性スタッフが参加することで、よりサポートの幅が広がるのではと思います。予算不足のため、若者スタッフと無給スタッフの組み合わせで運用している現状では、これ以上のスタッフ増強は困難です。

来年度、報徳会館が取り壊されることになりました。移転先について候補が固まりつつあります。「子どもの居場所」にふさわしい、静かな環境に移動できればと考えています。

以上の課題、スタッフ増員と移転先の確保のため、上記の内容および、第1学期間の運用状況をまとめた「要望書」を9月はじめに日光市長および市教委あて提出しました。また、10月3日には理事、居場所スタッフなど5名で教育委員会を訪問し、教育長さんと話し合いを行いました。申し入れ要点は以下の2項目です。

1. 次年度の「子どもの居場所」の運営について、現在の700,000円を増額し、人件費および施設費として1,947,600円のご援助をお願いいたします。
2. 私たちの活動と小中学校との連携が円滑に行われるようご配慮をお願いいたします。

新しい「子どもの居場所」への移転が円滑に進むよう、みなさまがたのご援助、ご助言をよろしくお願いいたします。(手塚)

特定非営利活動法人 なんとなくのになわ 通信

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / Fax 0288-21-2631
E-mail: info@nantonakuno.net
ホームページもご覧ください。
http://www.nantonakuno.net/



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

こんな本はいかが？ その20 「地をはう風のように」 他

今回は、日光市(旧今市市)生まれで、宇都宮市在住の高橋秀雄さんの児童書を紹介します。高橋さんの作品には、高橋さんの生まれ育った昭和30年代を題材にして小林の風景、そして地元の言葉がふんだんに使われています。

◎「地をはう風のように」 高橋秀雄・作 森英二郎・画(福音館書店 2011年)
この本は、今年の読書感想文 中学校の部の課題図書に選定されました。昭和30年代の貧しい生活、しかし温かい人の眼差し。本当の幸せとは・・・？ 本当の強さとは・・・？ 大人が読んで、様々なことを考えさせられる作品です。是非一度読んでほしい本です。そのほかに「やぶ坂に吹く風」、「父ちゃん」、「やぶ坂からの出発(たびだち)」(3冊とも小峰書店)などがあります。

そしてもう1冊。ちょっと重い内容ですが・・・

◎「なぜ、人は平気で『いじめ』をするのか？」
— 透明な暴力と向き合うために — 加野 芳正・著(日本図書センター 2011年)
この本は、以下の内容で書かれています。

- 第1章 いじめ自殺の衝撃 — 三度のくいじめパニック —
- 第2章 ネットいじめ
- 第3章 <いじめ>のカタチ
- 第4章 なぜ、いじめは発生するのか？
- 第5章 学級集団といじめ
- 第6章 いじめ問題と向き合う

この30年間に起こったいじめに関連した事件を概観し、一人ひとりが今できることを考えるきっかけを与えてくれる本です。いじめ自殺が起こったとき、文科省や教育委員会が考える手立ては本当に役立っているのだろうか？

今こそ一人ひとりが自分の問題として考えることが必要なのだと思います。(白井)

会員について

正会員：46
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。



年会費(一口)：正会員 3,000円
賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんとなく」活動は会費と寄付金でまかなわれています。今年度は月～金の週5日居場所開設のため、必要経費が切迫しています。会員の継続をよろしくお願いします。

会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願い致します。

なんとなくのへや

昨年の大地震・原発事故以来、どういわけか小説を読む時間が増えました。しかも学校で教わって作家名や題名だけが頭に残っているような、いままであまり興味を持ってなかった小説に関心が向いています■ネットにある「青空文庫」はそんな短編小説を拾い読みするには格好の場所。芥川龍之介の短編などを読んでいくうちに、ふと、横光利一の『機械』が気になり、iPadの画面で読み通しました。読んでる間に頭が酩酊状態になり、これが「新感覚派」というものなのかと勝手に納得し、次は長編をと『上海』を読み始めたけれど、ディスプレイでの読書は続かず岩波文庫版を購入。「蒙古馬の脚力が相場を動かす」という記述にインターネット投資を連想したり、工場の暴動に現在の中国を重ねたり、80年代読みふけたSF『ニューロマンサー』を思い出したり、上海に行ってみたくなったり...■高校の教科書にあった志賀直哉の『城之崎にて』では、昔はなんとも思わなかった「逃げる瀕死の鼠」の姿に落涙。年取って涙もろくなっただけなのかもしれないのに、描写力に感服した勢いで、名作と言われる『暗夜行路』を買ってしまい、自由だけど駄目な主人公に自分を重ねてみたり。若い頃はこんな読み方はできなかったなあと思います■私の場合、読書時間が就寝前で、健康上、精神衛生上、夜中の読書はあまりお勧めではありませんが、20世紀前半の日本の小説、読まずにおくのはもったいないとあらためて感じています。読書の秋、選択肢のひとつにいかがでしょうか。(T)